令和7年度 第1回 藤沢市立大鋸小学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2025年5月20日（火） 9時30分～11時30分
場 所　藤沢市立大鋸小学校 2階 指導室

出席委員	堀河 俊介（会長・保護者） 近藤 千鶴（副会長・大鋸小学校校長） 田中 舞（保護者） 大谷 美津子（村岡地区青少年育成協力会） 織部 朋子（大鋸地区社体協） 渋谷 幸江（藤沢東部地区主任児童委員） 平石 美和（村岡地区主任児童委員） 金澤 健二（おはようボランティア） 谷津倉 晋（村岡市民センター長） 髙津 直子（大鋸小学校教頭）　以上10名
次第	1 開 会 2 委嘱状等の交付 3 自己紹介 4 議 題 （1）令和7年度藤沢市立大鋸小学校学校運営方針及び学校概要について （2）水泳授業における監視の依頼について （3）コーディネーターの推薦について （4）今年度の協議内容について （5）その他 5 その他 今年度の会議日程（予定） 第2回　7月 11 日（金）　9:30～（会場：大鋸小学校 指導室） 第3回　8月 21日（木）　10:00～（会場：大鋸小学校 図書館） 第4回 11月 19 日（水）　9:30～（会場：大鋸小学校 指導室） 第5回　2月 16 日（月）　9:30～（会場：大鋸小学校 指導室） 6 閉 会
協議内容	意見等 **＊4（1）令和7年度藤沢市立大鋸小学校学校運営方針及び学校概要について** 【学校長より説明、資料参照】 ・学校運営方針（グラウンドデザイン）から校長先生の思いが伝わった。「ごきげん」というキーワードも近藤校長先生らしい。日頃から保護者と情報共有することが大事。同じ情報でも捉え方が違うこともある。こういった見えるものがあるとわかりやすい。コミュニケーションの広がりが大切だと感じる。

	＊4（2）水泳授業における監視の依頼について 【学校より】 ・4月末に行われた社体協総会で依頼済み。これまで検討してきた経緯や監視員の条件、活動の流れなどを示し、本校で開催する救急法講習会への参加と監視が可能な日程調整をお願いしている。 ・社体協以外の方で、監視をお願いできる方の情報や状況を確認したい。 【委員より】 ・社体協としてもできるだけ協力したいと考えている。実際には救急法講習会（平日開催）に参加できる人が限られるため、現在、5名程度の参加が可能という状況。 ・監視ではなく、目配り、見守りという程度のサポートなら人数も増え、協力しやすいのだが。 →学校の現状として、水泳授業の陸上監視にあたる教員の人数が不足している。（昨年度も苦慮し管理職が入っている現状） この監視は、先生に替わる人材（見守りでなく監視）としてお願いしたい。 そのため、救急法講習会にも参加いただき、心肺蘇生法等を中心に確認したい。 →まずは、今年実際にやってみて、そこから得られた成果と課題を今後の検討材料にしたい。 **＊4（3）コーディネーターの推薦について** 芳我美佳子氏（本校保護者）を推薦し、承認を得た。長い間 PTA 役員に携わり、特に、コロナ前後の PTA 活動を整理し、よりよい方向へ、方法をと尽力いただいた。学校が信頼して物事を相談できる人である。また、地域での活動にも幅広く参加され、人脈も広くお持ちである。今後、様々な人・もの・ことをつないで力を発揮いただけると期待している。 **＊4（4）今年度の協議内容について** 【学校より】 ・昨年度、防災の取り組み、中でも大地震発生時の引き取りについてご意見をいただいていた。現状は、それぞれの学校や学童、幼稚園や保育園で引き取り訓練等を実施しているが、その方法や時期、内容については共有できていない ・学校としては、実際に大地震が起きた場合、保護者はどんな動きを取ることになるのか、引き取り方はもちろん、実際に起きた時の引き取りが可能なのか、不可能なのか、想像できる限りどんなことが考えられるのか、情報を得ておきたいと思っている。 ・例えば、幼保小中、市の従事職員など、学校の稼業時間中に大地震が発生した際に連携できるといい人たちと、このコミスクの場に集まって情報共有や、新たな約束ごとなどの確認ができると心強いと考えている。 ・8 月と 11 月の協議会を拡大で行い、8 月は情報共有と来年度に向けての案を考え、11 月に共通理解を図り、例えば来年度、同一日に引き渡し訓練を行うなど、取り組んでみるのはどうか。

	【委員より】 ・発災時に地域として共通認識があって、対応できるとよいのではないか。小・中学校の連携に加えて（引き取りは上の子から）幼・保とも深めていける方法を考えてみたい。 ・地域での約束「きょうだいがいる場合は、この順番で引き取る」などが、見える化されることはとても大事だと感じる。共通認識できるといい。 ・訓練に取り組む意義や目的、課題を整理していけるといい。 ・引き取り訓練は毎年行っているが、保護者は訓練のために仕事を調整していることが多い。実際に大地震が起きた時の保護者の動き、引き取りにかかる時間、迎えにこれない家庭の数などがある程度わかっておけると、備えや想定を多くもつことができる。 ・学校が一番起きてほしくない時間帯に発災した時を、最悪な場合を想定して考えておけるといいのではないか。 →同一日の引き取り訓練をすることを目的とせず、地域の防災、安全確保のために、どんな課題があり、どんなことができるとよいのか、検討を重ねる年にしたい。まずは、今回の協議を職員とも共有し、学校の課題を整理・把握していく。また、8，11月の協議会は、中学校と合同開催も可能であるため、そこで話題、検討できるように考えていきたい。 【会長より】 ・防災の取り組みに加え、今年も子どもを真ん中にした大鋸の子どもたちの情報共有を行っていきたい。

次回開催日程 2025 年 7月 11 日（金）9時30分～
場所 大鋸小学校 指導室

藤沢市教育基本振興計画「未来を開く「学びの環」ふじさわ

学校教育ふじさわビジョン・自己の知　・状況の知　・かかわりの知

学 校 教 育 目 標

自らの体験を通して伸びようとする子どもの育成

めざす子どもの姿

- 元気な子
  自己効力感を高め、自分の成長を実感する子
- よく考える子
  自分で考え判断し、学びを深め高める子
- ねばり強い子
  自分と向き合い、ねばり強く取り組む子
- 思いやりのある子
  自分や友だちを認め、大切にする子

めざす教職員の姿

- 広い視野と豊かな人間性・社会性
  「知ろう」「学ぼう」とする姿勢
- 確かな指導力・支援の目
  豊かな専門性　ともに学びともに育つ
- 人権感覚・寛容さ
  多様性を認め合う　スクールコンプライアンス
- やりがいのある持続可能な働き方
  風通しのよい職場づくり　職場の同僚性

保護者・地域との連携

- 情報の共有
  保護者や地域との対話　信頼関係の構築
  ともに子どもを育てる意識づくり・関係づくり
  コミュニティー・スクールの活用、連携
  学校評価の活用
  学校公開　ホームページの活用
  おはようボランティア・パトロール隊の見守り
- 地域資源の活用
  地域教材の活用　幼保小中連携・交流

笑顔がいっぱい！「ごきげん」な大鋸小

【教育課程】

教科や各種行事等の目的やねらいを考えた活動（体験）の充実を図る
交換授業の実践、実績

【総務・庶務・経理】

計画的な予算の執行

【研究・研修】

児童の実態に基づいた「全員参加」の授業づくり
豊かな体験や探究活動の充実により、資質・能力の育成を図る

【安全管理・地域連携】

地域と連携した交通安全教育、防犯・防災・安全教育の充実

【児童指導・支援】

一人ひとりの児童が安心できる学級づくり・居場所づくりに努める
いじめの未然防止、校内支援体制の充実（課題把握・情報共有・見通し）
合言葉:「どうしたの？」「どうしたいの？」「私に手伝えることはあるかな？」

２０２５年度　藤沢市立大鋸小学校　学校経営方針

１．基本的な理念

2024 年 11 月、不登校児童・生徒数が全国で 35 万人に達したと報道された。進化する生成 AI、社会の仕組みや考え方が急速に変化する現代だからこそ、「学校」という小さな社会で得られる学びを大切にしたいと考える。

子どもたちには、様々な教育活動に主体的に向き合い、関わり合い、自分で考え行動できるようになってほしい。また、友だちと協働して学ぶ楽しさや難しさを感じながら、自分の良さに気づいて欲しい。

そして、教師と保護者・地域が連携し、ともに子どもを育てていく意識や信頼関係を築きながら、未来をしなやかに、たくましく生きる子どもの育成をめざしていきたい。

２．学校教育目標

「自らの体験を通して　伸びようとする子どもの育成」

≪今年度のスローガン≫　**笑顔がいっぱい！　「ごきげん」な　大鋸小**

多様な人と出会い、異なる価値観に触れる中で、対話を軸に、様々な場面で楽しさや喜びを経験し、子ども・教職員・保護者・地域のみんなが笑顔でごきげんに過ごせる学校をめざす。

３．めざす子どもの姿

◆元気な子　基本的な生活習慣を身に付け、健やかに、自分の成長を実感する子
（手立て）・保健安全指導の充実　・自己効力感（自分に自信を持つ力）を高める

◆よく考える子　自分で考え判断し、学びを深め高める子
基礎・基本の学習を身に付け、自らを表現できる子
（手立て）・全員が参加したくなる「わかる」「楽しい」授業
・落ち着いた学習環境づくり　・課題解決的な学習

◆ねばり強い子　自分と向き合い、ねばり強く最後まで取り組む子
（手立て）・継続的な支援と見守り　・豊かな体験　・活動の振り返り

◆思いやりのある子　自分や友だちを認め、大切にする子
友だち、先生、地域の人たちとのかかわりを大切にする子
（手立て）・道徳教育の充実　・いじめは許さないという風土づくり
・自己有用感（人の役に立つことで得られる充足感）を高める

４．めざす教師の姿

◆広い視野と豊かな人間性・社会性

「知ろう」「学ぼう」とする姿勢　　未来を担う子どもたちの育成
子ども、保護者との信頼関係

◆確かな指導力、支援の目

豊かな専門性　自己研鑽　研修・研究の充実
個の実態に応じたきめ細やかな指導　　協働的な学び　　ともに学びともに育つ

◆人権感覚、寛容さ

多様性を認め合う　　スクールコンプライアンス

◆やりがいのある持続可能な働き方

風通しのよい職場づくり　職場の同僚性　　働き方改革の推進（大鋸デーの実行）
心身の健康（一日7時間睡眠）をめざす

５．保護者・地域との連携

◆情報の共有

保護者や地域との対話・・・ともに子どもを育てる意識づくり・関係づくり、信頼関係の構築
学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の活用、連携　学校評価の活用
開かれた学校づくり・・・学校公開　ホームページの活用
見守り・・・おはようボランティア　パトロール隊

◆地域資源の活用

地域教材、ゲストティーチャーの活用　幼保小中連携・交流　地域と連携した防犯・防災

６．経営の方針

①学年力の強化

・大鋸の強み!担当を中心とした、学年内での対応力の強化を図る
・報連相、情報交換、開かれた授業、交換授業、教材教具の開発など、対話と共有を大切にしていく

②教育課程

・学校行事等の定着を図る
・教科や各種行事等の目的やねらいを考え、児童の充実した活動（体験）を確保していく
・教科等横断的な視点も意識した年間指導計画の作成をめざす

③研究・研修

・児童の実態に基づいた、楽しくわかりやすい授業づくりに取り組む→「全員参加」の授業づくり
・校内研究の4つのアプローチ（チャレンジできる・達成感を味わえる・追求できる・他者とかかわりがある）を意識した授業作りをしていく
・学習指導要領に基づいた、指導内容の充実と、信頼性妥当性のある学習評価をめざす
・豊かな体験や学びあい、探究活動の充実により、資質・能力の育成を図る

④児童指導・支援

・一人ひとりの児童が安心できる学級づくり・居場所づくりに努める
・“クラスの子ども”から、“学年の子ども”、そして、“大鋸小学校の子ども”として、全職員で子どもたちを温かく育てる。（学年集会、交換授業、日常的な教室間の行き来、学年内での T.T.）
・ふれあい活動を通し、異学年交流や児童相互の関わり合いを充実させる
・児童の実態、保護者・地域の実態を把握し、学習指導や児童指導、支援の方向性に活かす
・学習支援員や介助員の配置をより効果的になるよう工夫していく
・いじめの未然防止に努め、早期対応・早期解決による校内支援体制の充実を図る
合言葉:「どうしたの？」「どうしたいの？」「私に手伝えることはあるかな？」
・支援が必要な児童についての情報を共有し、担任が一人で抱えることなく学校全体で支援する。
・定期的、効果的なケース会議の在り方
（担任、児童支援担当、SC、養護教諭、管理職、外部組織　等の役割分担）

⑤安全管理・地域連携

・学校事故防止に向け、安全な学習環境作りを組織的に取り組む
・地域と連携した、交通安全教育、防災、防犯教育の充実
・ネットモラル教育の実施、デジタルシティズンシップ教育

⑥充実した教育活動のための予算の執行

・充実した教育活動を目指した計画的な予算の執行（教材・教具の充実を図る）
・教職員にとっても、安心・安全な職場環境になるよう努める